

# ダブル・バージナル（子楽器付き） ヨハネス・ルッケルス アントワープ、1600年頃

16世紀後期に始まるフランドル工房の鍵盤楽器製作者の中でも一番重要なのが、アントワープで最も高名なルッケルス一族の貢献である。ルッケルス一家が製作した数多くの楽器は、音の品質と外観で広く愛好され、しばしば変化改良を受けながら、最初のハンマー式ピアノが撥弦式鍵盤楽器に取って変わった18世紀末の末まで使



用され続けた。

中産階級の家の中で幅広く使用されたこのタイプの楽器は、フランドル派の絵画にもしばしば描かれている。1581-1680年にかけて記録されているルッケルス一族の活動のなかでも、ヨハネスは一族の長老の名であり、またその息子（1578-1643年）の名前でもあるが、このスフォルツェスコ城に保管されているバージナルの製作者は息子の方で、ペン書きで「ヨハネス・ルッケルス製作」と署名されている。HRの頭文字（ハンス・ルッケルス）は、この楽器の大きい方にも小さい方にも、どちらも共鳴板の金属の響孔に見える。

この楽器バージナルは、中にもっと小さい物が一台あるところから、親子楽器の形態に所属するが、子楽器は、弦の長さが親楽器（8ピエデ）に比べて半分（4ピエデ）なので1オクターブ高い音がする。今日まで保存されているダブル・バージナルの中で、ここに展示されている

ものように鍵盤の右側に子楽器が挿入されているのは、世界でも唯一つである。

このダブルの親子楽器は様々な用途に応えることができる。二台のバージナルの片方だけ奏することも出来れば、二人の奏者が各々の楽器を演奏することも出来る。

双方の楽器は、親楽器の上に子楽器を巧妙な方法ではめ込んで重ねられるので、一人の奏者が同時に奏することもでき、このポジションだと、鍵盤が押された時に下の楽器の琴槌が子楽器のそれを起こすことができる。

蓋の内部を飾る絵も特筆に値する。左から右へと主題に添って様々なシーンが続く。中央の東屋の下には、音楽へといざなう遊び絵が描かれている。飲み物の乗ったテーブルの近くで婦人がパールジナルを奏でているが、そのバージナルの蓋にも音楽を奏でる絵が描かれている。

そればかりか、婦人が奏でている小さいバージナルは、まるでフランドル派の画家のあいだで使われていた絵の繰り返しを紙に印刷したものと同じもので装飾したようだ。

蓋の外側にはほとんど絵はみえない。脇の後部にだけ、緑大理石のイミテーションを描いた元の塗りがまだみえる。

共鳴板は線と風変わりなアラベスク・ブルーに柔らかな色の混ざり合った花がテンペラで描かれている。

